

大志の学び舎

## 世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 11年間』

## 11月の目標

人格の完成を目指して  
「フェア」

## &lt;安全&gt;

- ・自転車の安全な乗り方を考えよう。

## &lt;保健&gt;

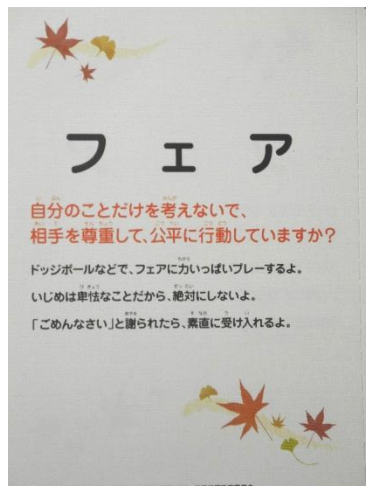
- ・薄着ですごそう。

## &lt;給食&gt;

- ・感謝して食べよう。

## &lt;あいさつ&gt;

- ・相手の顔を見てあいさつをしよう。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

Email: dai004@setagaya.ed.jp

## 躰と仕付け

校長 廣瀬 維謙

秋が深まり、校庭の木々の葉も色付き始め、朝夕はめっきり冷え込むようになりました。現在学校では、11月15日（土）の「音楽会」に向けて、各学年で練習が始まっています。音楽会本番での子どもたちの活躍が楽しみです。

さて、「躰」という漢字は「身」を「美」と書き、広辞苑では「子どもなどに礼儀作法を教えて身に付けさせること。また、身に付いた礼儀作法。」とあります。日本人にとって躰とは、人として身を正しく美しく整えるもの、ひいては心を美しく正すものという意味に通じます。確かにきちんとした身なりで、しっかりとした礼儀作法が身に付いている人からは、心の美しさを感じます。そして、この礼儀作法は一朝一夕に身に付くものではなく長い時間をかけて、家庭で丁寧にしつけられた結果、身に付くものです。

「躰」と同じ読みである「仕付け糸」とは、洋裁や和裁で仮縫いするときに、細い糸で型を整えるために使う糸のことで、この「仕付け糸」を使つての仮縫いがいい加減だと、立派な製品は仕上がりません。また、「仕付け糸」に太くて丈夫な糸を使うと完成したとき、布地に穴が開いてよい製品にはなりません。細い糸でまんべんなく丁寧にかけることが大切です。製品が完成したときには「仕付け糸」は取り外します。いつまでも製品に付いているわけではありません。

そう考えていくと、子どもへの「躰」も、この「仕付け糸」と同じ意味をもつように思います。御家庭では、乳幼児期からあらゆる場面の一つ一つに気を配り、丁寧に「仕付け糸」をかけてきたことと思います。

一方、この「仕付け糸」を外すのは、外しても型が崩れる心配がなくなり、しっかりと形を保てるようになったときです。子どもの場合で言うと、礼儀作法や善悪の判断力が身に付き、自らを律することができるようになったときでしょうか。家族という「仕付け糸」があるうちに、子ども自身が本縫いの丈夫な糸でしっかりと縫える（心身を正しく整える）ようになることが大切です。

理想の「躰」とは、子どもをしっかりと自立・自律させるために、子どものありのままを受け止め、自己決定することを促す声掛けを、丁寧に時間をかけて、何度も繰り返し行っていくことだと考えます。

子どもたちのよりよい成長に向けて、これからも御家庭と学校、地域が連携してまいりましょう。

○学校関係者評価アンケートへの御協力、ありがとうございました。アンケート集計結果は学校関係者評価委員会にて検証し、後日お知らせいたします。